

仙台司教区

教区事務所だより



(第 64 号)
昭和58年2月1日

司教目標第二年「小教区の平和」は

教会発展のカギ、福音の中心課題

一九八三年の課題は、教会にとつても世界そのものにとつても、昨年にひきつづき平和への努力ということになる。教会の年頭の元日を世界平和祈願日にさだめ、教皇は全世界にメッセージを送つて平和を訴えられてきた。一九八三年平和メッセージのテーマは、「平和のための対話―現代への挑戦」であった。さらに日本の教会は8月6日から15日までの十日間を平和旬間と定め、すべての信者に平和への努力をもとめている。

昨年は世界中に核兵器反対などを主にした平和活動が盛り上がった。しかし国際間の紛争はあとをたたず、戦争へのおそれが増すばかりで、いまは世界も各国も、心から平和をさげなければならぬ状態に置かれているといつてもいい。また失われた安らぎと秩序を取り戻すために、社会や家庭に平和をもたらすことも大きな課題である。いうまでもなく教会の平和活動は、あくま

でも福音の精神に根ざしたもので、キリストの教える真理、自由、愛、正義に支えられたものである。その限りにおいては、政治的な活動であろうと、社会や家庭のなかでの実践であろうと、「キリストの平和」を実現させてゆくべき私たちの使命にちがいはない。教区の年間司教目標「家庭から社会へキリストの平和を」がもつ意義でもある。

さて、キリストの平和の実現をめざした司教目標第二年は、年頭司教書簡に示されたように、「小教区教会にキリストの平和を」というものである。これは非常に具体性をもつたもので分かりやすい。それだけにある教会にとつて、あるいはあるひとにとつて、痛みを感じさせるものになるであろう。司教書簡において、公会議文書の教会憲章を数多く引用していることは、こうした人間的な弱みを持ちこえるための貴重な示唆でもある。これから今年のこのテーマの実践にあたって、各小

教区教会が工夫してゆくことになろう。いづれにせよ、今回示されたこのテーマは、教会発展の大きなカギになっていること、そして福音の教えるもつとも中心の課題であることを十分に認識すべきである。

教皇は今年の平和メッセージの中で、対話こそ平和実現に必要なものではないと説かれている。そして現実の対話の困難さも認められており、そのために対話は現代への挑戦であるともいわれた。しかし教皇はそれでも対話は可能であり、その希望を捨ててはならないといっている。そしてキリスト者こそ、対話への資質をそなえているものではなく、それだから対話を促進する責任があるという。

「小教区教会にキリストの平和を」実現させるため、教皇が訴えた「対話」は有力なヒントになろう。

§§§§§§§§

司教日程 (1月12日現在)



2月7日 教区司祭団役員会(仙台)

11日 仙台司教区広報担当者の集い (元寺小路)

28日 教区司祭団月例会(仙台)

3月7日 教区司祭団役員会

14日 司祭評議会(仙台)

83年目標

小教区教会に
キリストの平和を!!
(仙台教区)

司教さま

ご霊名 おめでとー



カテドラルでミサ、祝賀会

1月9日午前9時半から元寺小路教会において、教区長佐藤千敬司教の霊名(ライムンド)を祝う恒例の司教ミサが行われた。佐藤司教は司教総代理三浦平三神父、元寺小路教会主任司教土井文雄神父と共同でミサをささげたのち(説教土井神父)、信徒会館で教会新年会を兼ねた祝賀会に出席した。今回は仙台市内各教会の司祭、信徒代表も加わって、教区司牧の責任者である佐藤司教の慶事をお祝いした。司教霊名ライムンドは、ドミニコ会司祭聖ライムンド・ベニヤフォル(1月7日祝日)のことだが、これは佐藤司教の修道名とのことで、洗礼名はアウグスチヌス。祝賀会は信徒会館いっばいの人たちが婦人会心づくしのテーブルを囲んで、子どもたちから司教に花束やお祝いの贈呈、各教会代表の祝辞、子どもたちの合唱など、なごやかさにもちた盛会であった。

青森県宣教百年祭



実行委員会発足

青森県にカトリック教会の種がまかれてから来年で百年目をむかえる。去る1月12日(木)、夜6時半から青森市内の三教会の主任司祭、信徒会長、ケベック宣教会管区長が集まり、この百年祭をどの様に行

ベトナム難民の定住に 私たちも援助、協力しよう

ベトナム難民の定住促進について、日本司教団は昨秋の臨時総会で積極的取り組みを表明した。佐藤司教は年頭書簡でこのことに触れ、仙台教区での対応を呼びかけている。さる1月10日、初の難民定住対策の各教区担当司祭会議がひらかれ、定住促進の糸口を話し合った。教区からは三浦平三神父が担当司祭として出席した。

●現在の難民の状況

いま、全国各地の難民キャンプに収容されているのは約二千人。このうちカリタス・ジャパン関連施設には、全国の教会や修道院など十五教区二十二か所に六百六十七人。アメリカやカナダ、オーストラリアなどへの出国を希望する者が多いが、条件にかなう者は限られており、大半は日本定住を余儀なくされている。しかし定住の決意も条件もとのわないまま、キャンプ生活を続けているのが現状である。カリタス・ジャパン関連施設の難民のうち、二百十一人が日本定住を希望しており、まずこの人びとの定住促進が教会の第

一か話し合った。その結果、具体的な企画を立てるため実行委員会が発足、百年祭は今年の秋に行うことに決定した。具体的な事はこれから考えることになるが、函館元町教会巡礼、特別聖年にあわせて行事などが考えられ

一目標となるであろう。

●定住促進のためには

定住とはキャンプから出て、日本の社会で生活してゆくことだが、そのためには住居が確保され、生活費のため就職しなければならぬ。日本語を習得し、技術を身につける必要もある。定住促進とは、これらのすべてにわたって配慮し、援助しつづけること、そして最も必要なのは、彼らを理解し、私たちの中に受け入れるという人間愛であろう。

●仙台教区のできること

教区には難民キャンプもなく、直接に難民と接触する機会も少ないので、まず難民問題の理解からはじめる必要がある。そのため中央からの資料を各地区、小教区に送り勉強していただく。同時に、私たちの側から援助や協力の意向を示す必要もあるので、もし、地区や小教区教会、あるいは団体や個人で、具体的な援助方法があれば、担当の三浦神父(教区事務所)まで報告ねがいたい。難民問題には縁がうすいような仙台教区だが、教会共同体の一員として、可能な援助をする必要がある。教区、皆さまの心からの協力をお願いしたい。

ており、先人が残してくれた信仰をどの様に保ち、伝えていくかを考え、信者自身の意識の覚醒を目ざし、意味のある百年祭が行われることが望まれている。

司教を囲んで

仙塩地区

あけの星連合婦人会懇談会

「小さな生命を守る会」と、あけの星連合婦人会の合同で教区長佐藤司教を囲んで話し合う懇談会が、12月10日午前10時半から元寺小路教会の信徒館で行われた。

日頃教会に対して持っている婦人としての考えや希望をさくばらんに出し合い、司教に答えていただくなど、多方面にわたって話題が出された。特にファミリープランニングや、優生保護法に関する事、また司祭召命に関する事は真剣に話された。一方、司教からは他宗教との対話について、現在会長をしている宮城県宗教法法人連絡協議会で毎年行っている各教宗派本山研修で今年行われた伊勢神宮訪問などの話があった。来年も司教を囲むつどいをぜひと希望し、午後1時40分閉会した。

召命練成会

チーム合宿行われる



来る3月に行われる召命練成会を成功させるため、リーダーの練成会が12月27日から29日までの3日間行われた。

参加者は教区の神学生養成担当司祭、修道会の養成担当者、夫婦のカップル、独身者など18人。3月の練成会は、「召命は、司祭、修道者だけでなく、結婚生活、独身生活もまた

その人に対するキリストの呼びかけに答える生き方である」という観点から、キリスト者の生き方を若い人達に考えてもらおうとするものである。この3月の練成会の参加者が、それぞれの召命を自覚し、この呼びかけに答えるためにリーダーが良き援助ができるように、熱心な話し合いが行われた。

ヨアンナ様さま(聖ウルスラ会)

修道誓願五十周年祝う



1月15日、成人の日、聖ウルスラ会のスザンナ・マルテン修道女(修道名ヨアンナ)は修道誓願五十周年を祝った。72歳。

同修道女はカナダ・ケベック州の出身で、20歳の時ウルスラ会に入会、22歳で初誓願、一九三七年、27歳の時ウルスラ会の日本への宣教女派遣第二陣のメンバーの一人として来日した。ドミニコ会の要請で仙台に宣教の拠点を置いた聖ウルスラ会は、女子教育を通して福音宣教をと、同修道女によって家庭学校(現在の家政専門学校)を創立、続いて幼稚園、小学校、中・高等学校が作られウルスラ学院の基礎が築かれた。長らく中・高等学校家庭学校の校長を勤め、現在は第一線を退き後輩の精神的な支えとなりながら、同窓生の世話、洗礼の準備の指導など行い、長年呼びなれた修道名ヨアンナ様で今も親しまれている。金祝のミサは1月15日一本杉修道院で佐藤千敬司教の司式で行われ、ミサ後ささやかな祝賀会が開かれた。聖ウルスラ会日本管区で

は、誓願五十周年を最初に祝った喜びの日でもあった。

+

ブレン神父カナダで急逝

ケベック外国宣教会

ケベック外国宣教会の元日本管区長ブレン神父は去る12月29日、心臓病のため、カナダで急逝した。60歳。

ブレン神父は21歳でケベック会に入会。司祭叙階後来日し、東京・赤堤教会で宣教活動を開始、ボーイスカウトの育成や社会問題に深い関心を示しながら、青森・十和田教会等で司牧に従事、在日20年の内、10年間は管区長として会の重責を担った。一九六九年、病を得てカナダに帰国していた。

追悼ミサは青森・本町教会で1月10日午後6時半からモリス・ラ、管区長と11人の司祭の共同司式で行われ、関係者80人が参列した。

+

小野はるゑさん

(小野忠亮神父令姉) 急逝

小野忠亮神父の令妹マリア・マグダレナ小野はるゑさんは、1月15日午前9時すい臓炎のため急逝した。はるゑさんは昭和50年から弘前清水ホームに入居していたが12月から病氣となり工藤病院に入院していた。享年86歳。葬儀ミサは17日午後1時から弘前カトリック教会で小野神父を中心に5人の共同司式で行われ関係者多数が参列し故人の冥福を祈った。

希望の聖母子像 建立

鶴ヶ谷カトリック墓地に

去る11月7日、仙台鶴ヶ谷カトリック墓地に希望の聖母子像が建立された。この像は深沢守三神父が制作、高さ一メートル七十センチ、台も合わせると二メートルにも及ぶ。かつて元寺小路教会所属で福島県の相馬市に在任している松田繁氏夫妻の依頼によるもの。令嬢が仙台白百合学園高校在学中急死したのをい

エキユメニカルな対話と

交わりの会

ターグング 2月に行われる

毎年恒例のカトリックとプロテスタントの教職者、信徒のエキユメニカルな対話と交わりの会。ターグングが2月20日午後4時から21日の午前11時半まで行われる。今年は一現代史を生きる教会(八十年代の宣教)というテーマで池 明観氏(東京女子大客員教授)の講演が予定されている。場所は日本キリスト教団仙台北三番丁教会で宿泊も可能である。会費五千五百円(夕食・宿泊費含む)、申込みは仙台市木町通2-1-15天野五郎氏(Tel 331-3550)詳細は元寺小路教会笹気神父まで。

結婚講座をはじめ、六年経った。年間総数、約六十回のお話し。計三百六十回、司祭生活の六分の一は、ほとんど毎日やったことになる。何を話していいやら、皆目わからなかったときに

呼ばれています

結婚・独身・修道者・司祭

は話せるようになったかもしれない。でも、まだまだの感。そんな中であつて、ちょっとり気づかされた事。夫婦は、呼びかけ合ねばならない。一方がこのことを放棄したとき、もう活きられなくなる。そしてまた、これは、訓練。

わがままとわがまを充分に出し合い、投げ合い、受けとめ合う。かけがえのないあなただからできること。そこから、あなたでなければ立ち行かないことが互いに教えられる。あなたなしには活きられないことを具現するのが結婚。その極みにあなたがいる。活きる形態は様々。その形態を通してしか応えることができない。主は、今の私に呼びかけられる。私は、どう応えよう?! (笹気神父)



● 広報担当者のつどい

日時 2月11日(金) 午後2時から5時迄

場所 元寺小路教会信徒館

内容 ・司教あいさつ ・講演「新聞の意味するもの」女子パウロ会 Sr長谷川昌子 ・懇談会 小教区報、教区報を充実させるためには、他。

● 広瀬川殉教祭

日時 2月27日(日)午後1時30分から

場所 元寺小路教会に集合、教会前からロザリオの祈りをしながら行列し殉教碑前でみことばの祭儀を行う。

● 練成会(第一回)

テーマ // 招きに耳を傾けて // 1どのような招きか考えよう!

日時 昭和58年3月26日午後5時から 29日正午まで

場所 光ヶ丘研修所(仮称) (東仙台司教館隣り旧司祭宿泊所)

対象 高校生以上の青年男女

定員 40人(定員になり次第締切り)

参加費 学生一五千元、一般一六千元

申込み 2月末日まで(申込用紙で) 仙台市本町一丁目2-12 元寺小路教会練成会係

主催 神学生養成委員会

☆ クリスマスを

☆ …… 多くの人々とともに



☆ …… ☆ …… ☆

☆ 市民クリスマス二題

☆ 福島 第17回いわき市民クリスマスは12月

11日午後2時から平市民会館で行われた。市内のカトリック、プロテスタント各教会が合同で企画したもの。今年は幼稚園児のキャンドルサーピス、クリスマスキャロルと宗教曲を中心に活動しているシンガーソングライター佐藤みゆきさんのコンサートなど肩のこらない楽しい集いとなった。講話は小松川教会の原登牧師が担当、人間は苦難によつて成長すると、たとえをもつて語りかけられた。

☆ 岩手

水沢の市民クリスマスは12月11日午後6時30分から水沢市公民館ホールで開催、恒例となつた水沢カトリック教会アルクラコラスのクリスマスキャロル、黒沢智子バレエ団によるバレエ、キャンドルサーピスのほか、今年の水沢キリスト教連合会による劇、「信男の新聞配達」が上演された。なお当日五万二千円余り集まつた愛の献金は、さっそく歳末助け合い本部に送られた。

☆ 宮城県築館教会の巡回教会となつて

いるハensen氏病施設新生園には、約40人の信者の方がいるが、12月25日午前10時からクリスマスミサと祝賀会が行われた。ミサには外出のできる信者の方30人と、仙台・元寺小路教

会のレジオ会員、聖ドミニコ学院高校生等15人が参加、梅津明生神父の司式でクリスマスミサがささげられた。ミサ後祝賀会が行われ、ドミニコ学院高校生のギターや歌、新生園の方々のカラオケも飛び出すなど、なかなかうちには救い主イエズス・キリストの降誕を心から祝つた。

☆ あけの星荘のクリスマス

軽費老人ホーム「あけの星荘」のクリスマスは12月23日の午後から行われた。第一部は歌や踊り、劇「白鳥の湖」などを楽しみ、最後に元気にフォークダンスを踊り、ブレゼント交換を行つた。第二部はキャンドルサーピスと会食を共にし、クリスマスの前祝いをした。

なおこの席上でライオンズクラブから、ゲートボール場と花壇整備のための援助金の贈呈式があつた。12月24日の夜には園長の本間重治神父の司式でクリスマスミサが行われ、イエズス・キリストの御降誕を祝つた。

☆ 八百屋さんと共にクリスマス

仙台の聖ウルスラ会修練院では、日頃お世話になつている近所のお店の方々を招待し、クリスマス会を開いた。八百屋、魚屋、米屋、時計屋、写真屋さんの家族を招待したところ半数の四家族が出席、聖堂でのみことばの祭儀、クリスマスの話などあり、本当のクリスマスを知つたと喜ばれた。このつどいがきつかけになり、24日のクリスマスミサにも出席した家族もあつたということである。



最近、ことばに興味を持ちはじめた。

ことばにはたくさんさんのイメージが伴うものである。同じことばを用いながら互いが通じ合えず、並行線をつたどるのはそのためかも知れない。

例えば、「オートバイ」と聞いただけで、ある人は暴走族・他人迷惑・事故などの負のイメージをいだく。他の人はスピード・そうかいさ・経済性と正のイメージをいだく。互いが自分の固定したイメージにとどまる限り、相手を不良・わからずやと決めつけ、二人の間には決して対話が成立しない。

ことばは対話を可能にする。一つのことばに対する互いのイメージが合つたとき、あるいは相手のイメージがどんなものかを探そうとした時に、対話は可能となる。

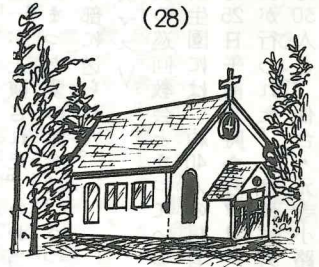
もし、相手の、ことばに込められたイメージを無視して、自分のイメージだけで語ろうものなら、単なる一方通行、モノローグに終つてしまう。ことばにたくさんのイメージを持てる人は、ものごとを客観的に見ることができ、その人の世界はきつと広く大きにちがいない。

(狼河原)

おらが教会

福島・田島教会

(28)



福島県の南西、栃木県境に南会津郡田島町があります。この町が一望できる愛宕山の腹に、室町時代の初期に築かれたという鴨山城址があり、その城址を背後にした高台に、昭和42年にカトリック教会立の幼稚園が建てられ、布教に役買っています。

田島教会は、幼稚園のそばにはなく、この地から更に西に4キロ入った福米沢というところにあります。福米沢には、文化四年と記されたマリア観音像があり、現在常楽院という真言宗のお寺の境内に、田島町の「重要文化財子安観音」としてまつられています。

福米沢という地に、キリスト教が入ったのは、明治16年キリスト教解禁の後、現在の信徒会長室井勲氏の曾祖父ヨゼフ湯田初次郎氏によって、家族全員が信仰に導かれ、大きな自宅の屋根に十字架を立て、祭壇も設けて祈りをしていたとのこと。その後、この家は火災により焼失、隣家の、現在室井美氏宅に移りました。この家の入口頭上には、「天主教教会」と記された大きな木札をかけた。

神父様が出入りされる入口のほか、祈りの部屋、手水場も別に造られていたという事で、会津若松からラフォン、マリオン両神父様や、パリ外国宣教会の神父様が六〇キロの山道を人力車で巡回して来られたという事です。昭和7年、現在の八戸塩町教会の児山神父様のお父様、ヨハネ児山定吉氏が、自宅前に礼拝堂として洋風の建物を建て、「ペトロ館」と名付け、ここでミサが捧げられたという事です。後の大司教・土井辰雄枢機卿も若松から巡回して来られ、村人を集めて説教もされたという事で、当時は洗礼を受けた人もかなりあったという事です。

昭和10年、ドミニコ会のラローズ神父様により、現在の福米沢、中学校前の小高い所に、司祭館も含めた教会が建てられ、若松教会の巡回教会として月一回位、クチュール神父様等も、ジープで巡回されました。

昭和33年、会津地区が、メキシコ、ガラニカ両神父様がおいでになるようになり、冬期等吹雪の中、早朝田島駅から福米沢までの四、五キロの道を徒歩で来られたものです。

昭和36年、ヴァルデス神父様をお迎えして田島町に民家を借り、小・中学生の土曜学校を始めたのがきっかけとなり、昭和42年冒頭にも書きました暁の星幼稚園を開設、現在では町民の中に「カトリック」「あけのほし」の言葉が日常会話としてすっかり溶け込んでいます。現在の教会の建物は、福米沢教会創立50周年を記念して、一昨年建て替えたもので、

入口上方の壁には、昭和10年に建てられた建物の一部である十字架の印がはめ込まれています。礼拝堂だけの、小さなかわいい聖堂ですが、農村風景にマッチして、一きわの美観を添えています。主任司祭であったヴァルデス神父様は田島町に20余年在住、町民から「エンチョウセンセ」として親しまれていましたが、昨年10月米国へ赴任されました。田島町と、教育委員会では、ヴァルデス神父様の教育事業に捧げた功績を賛え、異例の感謝状が贈られる等、カトリック教会の存在と意義を町民に強く印象づけることができました。

現在、信徒数は40数人、その多くは苦しい時代を耐え、信仰を守り続けて来た方達で、その人達の築かれた固い基盤によって支えられている田島教会です。今のところ教会活動としては、唯一の布教である幼稚園を通して、今までの培われた地にみ言葉の種がまかれています。

ヴァルデス神父様の後任として着任したニボン神父様の聖書研究会も始まり、小さな共同体として、これからも、新しい時代に応じた地の塩となるよう、努力しております。

(室井 きぬ記)



仙台司教区事務所だより第64号

昭和58年2月1日発行

発行所 仙台司教区事務所

〒980仙台市本町一丁目2番12号

TEL 0222 22 7371